

『たまりば研修会』

開催報告

一月十四日(土)、岡山市民会館において「自分らしく働く、働き続けるために私たちにできること」として開催したこの研修では、遠くは県外や県北から、百名近くの方々の参加がありました。

講演では、九州産業大学の倉知延章先生より「障害者の就労支援の現状及び職場定着支援の課題と展望について」お話し頂きました。

就労支援の現状について、障害者の雇用状況は右肩上がり、過去最高を更新。法定雇用率の上昇やハローワーク



の雇用支援策・就労支援事業所の増加等が要因に挙げられました。また、企業の障害者に対する合理的配慮の義務化及び障害者差別禁止法の制定により、障害についてきちんと伝えて配慮を受けることで働きやすい職場環境が得られ、その提案やご本人の権利擁護活動を行うのが支援者の大きな役割になるとの

ことです。どうすれば働けるのかを考え、その人が持っている力を一杯発揮できるような職場環境を作る為に、仕事の仕方を職場に伝えていく。まずは働きがいのある職場を見つけたこと、ご本人のリカバリーや自信も大事なポイントになるとの事でした。定着支援の一つとして「たまりば」はとても有効であり、仲間同士で支え合える場に加え、個別の支援につながれば、果たす役割は大きいと話して下さいました。



シンポジウムでは、当事者である「たまりば」登録メンバー代表Sさん、桐山さん、企業で障害者雇用に取り組むお立場として「株式会社ベネッセビジネスズメイト」の川上さん、支援者として日頃から就労支援に携わり、「たまりば」スタッフとしても精力的に参加して下さいている「就労もも」の加藤さん4名の方々から、

「自分らしく働く、働き続けるために私たちにできること」として、思いや希望などを伝えて頂きました。Sさん、桐山さん共に、「たまりば」開所当初から利用されており、余暇の充実、仲間づくりの場の一つとして活用しております。

Sさんは、職場に「障がい」について詳細を伝えず勤務を続けられていて、その中の不安や迷いを「たまりば」で仲間やスタッフに話すことで安心を得られているそうです。

「当事者にとって家だけではなく、色々な場所に自分の存在を認めてもらえる居場所があることはありがたい」との言葉がとても印象的でした。

桐山さんは就労継続支援A型事業所を利用されながら、一般就労の就職活動に取り組む中で「たまりば」

でも仕事の相談をされていたそうです。また、苦手だと感じている人とのコミュニケーションの場としても活用されており、利用の目的は様々だという事を改めて感じました。

川上さんからは『たまりばに期待すること』として、「いつもいつも支援してくれなくていい。でも、ちよつと元気がなくなつた時に、エネルギーをもらえるところ。」として、時には「場」の力を存分に生かした仲間同士で悩みを分かち合える「居場所」として、困った時には支援者も一緒に考えてくれる「相談場所」として、今後の「たまりば」の可能性を更に広げて行くためのエッセンスを頂きました。

加藤さんは、『「たまりば」は自分自身も働く一人の人間として、メンバーの皆さんからの様々なお話を通じて【働く】ということを学んでいる』とお話されています。

どなたのお話しくらもち、【働くことや働き続ける】ためには、自分一人で頑張るのではなく、働く喜びや苦しさを分かち合える仲間の存在や、安心して立ち寄ることの出来る居場所の存在の必要性を改めて感じた時間となりました。

